

諸人のここに学びて―校長室から見える風景―(14)

新学期へ ―夏の終わりに昔の自分を振り返ると―

いよいよ来週から2学期が始まるというのに、酷暑はまだまだ続きそうです。それでも、朝夕はなんとなく気温が下がってきたように思います。

この夏、初任校の同窓会に声をかけてもらい、30数年ぶりに卒業生に会いました。なんと卒業生も50代になっており、いい社会人、大人になっていました。当時の自分を振り返ると、授業をはじめとしてなんと未熟だったことかと思えます。それでも一生懸命さや勢いだけはあったのかもしれない。そんな「先生」は彼ら彼女らにどう映っていたのだろうかと帰りの車を運転しながら考えていました。実は生徒に育ててもらっていたのでしょう。30年を経てなお、「先生」と呼んでもらえることにこの仕事のよさがあるのかもしれないとさまざま思いを巡らせました。

卒業生と言えば、昨日、かつて豊岡高校で担任した卒業生と会うことができました。初任校から20年ほど経ったころです。変わらず担任をさせてもらい、クラス経営や授業を工夫しさまざま実践しようとした時期でした。とはいえ、こうすればよかったのではと省みることも多々ありました。そんな時期の卒業生です。現在、ある県立高校で教員をしています。教員としてのキャリアを積み重ね、忙しいながらも充実した様子がかげえました。逆にこちらが頑張らないと、という気持ちになりました。今、それぞれの仕事や地域で活躍している卒業生に会ったり、様子を聞くことがあると本当にありがたいと思います。高校3年間がその後の人生のベースになったのかなと思えるのはこの仕事のよさでありやりがいなのかもしれません。(勝手な思い込みになっているかもしれませんが…)

初めて教頭としてお世話になった学校の当時の事務長の言葉を思い出しました。「教育は未来への投資」というものです。確かに、今すぐ結果が出るものではなく、さまざまところで活躍している卒業生があつときから見た未来、今その答えを出してくれているということでしょうか。

グラウンドから聞こえる部活動のかけ声や、ろうかを行き交う生徒たちの明るい声にいよいよ夏が終わり2学期が始まるなという感覚になってきました。新学期の始まりに気持ちを新たにしたいと思います。